

日本女性学会 2022年度少額研究活動支援 報告用紙

提出期限 2023年6月30日

提出年月日 2023年7月24日

名前	武内 今日子
所属・立場	東京大学大学院情報学環 特任助教
支給を受けた研究活動	現代日本におけるXジェンダー／ノンバイナリー概念の受容史
研究活動の実施状況	<p>本研究では、近年日本で普及しているXジェンダーやノンバイナリーという非二元論的な概念が、当事者やメディアの活動によってどのように普及し、当事者にいかなる実践を可能にしたのかを探ろうとした。そのために、2000年代に当事者団体の結成に関わったXジェンダー当事者へのインタビューをおこない、インターネット記事、mixiの投稿内容等のウェブ上のテキストを分析した。その際、インタビューの際の交通費や、テキスト分析関連書籍などに助成金を使用させていただいた。</p> <p>分析の結果、2000年代にXジェンダーのコミュニティに属していたXジェンダー当事者は、1990年代にXジェンダーにかんする活動に関わっていた関西のコミュニティ経験者とは異なる仕方でコミュニティの規範やXジェンダー概念を捉えていることが明らかになった。具体的には、性同一性障害概念の影響が極めて大きく、手術をしなければ「性同一性障害」者ではないとさえ考えられていたトランス男性メインのコミュニティにおいて、手術までは目指さない者としてXジェンダーが捉えられていた。</p> <p>他方で、インターネット上のSNSやホームページ、Twitterにおいては、Xジェンダー同士のつながりも醸成され、当時可視化されていたバイナリーなトランスジェンダーからのXジェンダー批判を退けつつ、Xジェンダーを個々人の定義に開かれた概念として意味づけようとする試みが見出された。さらにノンバイナリーは、日本固有の概念としてのXジェンダーとは異なる意味を持って、英語圏の記事の翻訳などを通じて流入していることがわかった。Xジェンダーに違和感を覚える当事者は、ノンバイナリーという新規の概念に、非二元的な性のあり方を制度的に保証すべきなどの主張を託そうとしていることも示された。</p> <p>なお、これらの成果は、博士論文としてまとめられ、2023年2月に審査を通過している。</p>
幹事会使用欄	